慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | 加藤寛著 ソ連の経済成長と経済計画 |
| Sub Title | |
| Author | 丸尾, 直美 |
| Publisher | 慶應義塾経済学会 |
| Publication year | 1960 |
| Jtitle | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.53, No.7 (1960. 7) ,p.670(96)- |
| JaLC DOI | 10.14991/001.19600701-0086 |
| Abstract | |
| Notes | 新刊紹介 |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19600701-0086 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

足どりは重く、占領下の発展は生活保護法が主体であり、現在の皆保険と国民年金とて、前進の影につきまとうかつての国保と厚年再現の危険をするどく指摘する。

われわれはこの通史で日本の制度がたどった道の遠くきびしかったことを知るが、従前散見する発達史研究が部門別か断片的研究であったのに比し、たとえ一般的通史とはいえ、総体としての日本社会保障の歩みを正面から鳥瞰した本書の価値は大きく、叙述がやや平板・機械的に流れ、編により精粗の偏りがあるにしても、今日の問題の所在をとらえ、今後の学習・研究の足場とするに充分なものといえよう。（至誠堂刊・A5・三四二頁・四〇〇円）。

—藤沢　益夫—

＊　＊　＊

加藤　寛著

## 『ソ連の経済成長と経済計画』

本書は、ソ連経済成長の内容を分析するとともに、高成長を支えてきたソヴェート経済計画の仕組みとそのメカニズムに鋭い批判的検討を加えた注目すべき労作である。

本書は七章から成っている。第一章ではソ連経済成長の過程を概観するとともに、その成長率測定についての種々の議論を紹介する。第二章では、ソ連経済成長の隘路を探る。第三章では資本係数を、第四章では減価償却の問題を、第五章では投資効率乃至投資配分の問題をとりあげて、この点からソ連経済の成長率の妥当な数値を推定するとともに、これらの点をめぐる理論的諸問題を解明する。第六章ではソ連の経済計画論にみられる新しい理論的発展に注目し、これが経済計画を合理的に行なうための当然の要請であることを明らかにする。と同時に、この要請がマルクス・レーニン主義の伝統的教義と合致しない点にソ連の経済計画論の悩みがあることを指摘する。最後に、転換期にあるともいえるソ連国内の政治経済情勢が、ソ連の最近の路線や政策にどのような影響を与えるかを考察して、社会主義ソ連の将来についても興味ある示唆を与えている。すなわち、経済面については、過去の高成長を支えてきた重点投資政策、労働力依存傾向、減価償却の軽視が行き詰り乃至破綻状態にあるので、過去の成長方式に反省を加えて、経済効率を考慮した合理的な経済計画の方向に進むべきであると示唆する。また、政治面については、非スターリン化の方向が更に進んで、現在、ソ連が修正主義と非難している方向にソ連自身も進まねばならないだろうとみているようである。ここで、政治面の問題は経済面の問題と切り離して論じられているのでなく、経済面からの必然的ともいえる要請として、修正主義的方向に動くものと予想されている。

本書の特徴は、こうした問題を客観的に検討しているところにあるだけではない。イデオロギー的偏見に曇らされてとかくあいまいにされがちなソ連の経済計画理論に、近代経済学理論の光を当てて、合理的経済計画化と成長のための方向をはっきりと示しているところに、類書と異なる優れた特徴がある。（日本評論新社・A5・二一〇頁・三二〇円）

—丸尾　直美—

＊　＊　＊